

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年2月25日 午後2時～
会 場 大井分館（大井本町町会）

参加者 29人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆昨年の3.11の時に鉄道などが止まり、川越街道が大渋滞となった。緊急時の道路問題や広域連携による歩道も含めた川越街道の拡幅が必要ではないか。
- ◆町会としての災害時の拠点はこちら（大井分館）だが、耐震性に問題がある。第2の拠点を考えてほしい。
- ◆学校の指定避難場所について、この町会は二分される。また、子どもの通学校と親の避難場所と違ってしまう。
- ◆大井清掃センターが廃止になるが、東北地方の瓦礫処理に使えないか。
- ☆国、県において緊急輸送道路の検討を行っている。今後市の地域防災計画の見直しの中で検討しなければならない。
- ☆災害時には、決められた避難場所に行けない可能性もある。あらゆる公共施設が避難場所となることも考えられる。学校の関係についても教育部局と連携して考えていく必要がある。また、先日の自主防災研修会時に講師のかたが災害時に「公助はないと思え」ということを言った。決して市がなににもできないということではなく、そのぐらいの気構えで町会の役員さんとかがリーダーシップを発揮してほしい。
- ☆清掃センターの関係については以前より計画的に進めてきた。設備的な問題で難しい部分がある。上田知事も受入れは表明しており、私も思いは同じ。
- ◆新たな清掃センターで処理をやってもよいのではないか。皆、気持ちは同じだと思う。
- ◆水道の管路の耐震化があまり進んでいないがどのように考えているのか
- ☆耐震化は大変な経費がかかるため、毎年計画的に実施しておりますが、まだ時間がかかる状況です。水道企業会計は、コストと料金との関係では逆ザヤになっていることを考えますと、なかなか難しい状況です。
- ◆私は現役のサラリーマンで、3.11のときは夜の11時に自宅に戻った。昼は現役世代は地域からいなくなってしまう。広報にも町会加入促進の記事はあるが、実際の加入率は5割を切った。何とか市でもできないか。

☆転入者には、町会・自治会加入の案内を配布しているが、さらに加入を促す方法を考えたい。

◆町会のマンモス化はよくない。行政では目安として5、6百世帯が適当と言っているなか大きなマンションも一つの町会として組織化できないか。役員の育成なら、本町会に加入して経験をすればよいのではないか。

☆町会の組織率の件と併せてマンション単独での組織化について、例えば国保などの保険制度として、自分は医者にかからないから国保に加入しないとなると制度そのものが成り立たない。町会に入って何のメリットがあるのかではなく、皆で地域力を高める、防災力を高める、その結果として自然に組織化や組織率が高まるのがよい。

◆マンションそのものは自治会がない。代わりに管理組合がある。自治会的な要素もあるが、自治会でないので市からの補助もない。

☆マンションの管理組合は財産保全の要素が強いと思う。自治会の組織化については、私が直接出向いて必要性を説明してもよい。

◆防災力を高めるなら、市の重要計画として明確にする必要がある。また、企画の段階から民間を活用するのも一つの方法。

全てを並列でなく、もっとメリハリを付けてもよい。

☆庁内では部長級が組織マニフェストを掲げて、事業などを行っている。組織においてもメリハリを付けて行っていきます。

◆生涯学習の講演会で「ゆとり教育」の話があった。本来、地域で子どもたちを育てるためのものであったはず、学校も含めて地域社会の役割が注目されていると思う

◆組織は、町会やPTA、老人会、などそのほか老人から子どもの関係までいっぱいある。それを横に串刺しするような方法がよい。

◆大井地区は分館方式で上福岡地区では自治会で集会所を所有している。今後、統一していくと思うが、本町町会も組織率は40%を切って運営もきびしい。しばらく現状を維持してほしい。